

# 今月の技術対策 (畑作編)

留萌農業改良普及センター

TEL: 0164-62-1779 FAX: 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai@pref.hokkaido.lg.jp


 水稻・園芸編も  
HPで公開中！

## ～「秋まき小麦の適期・適正は種」と「豆類収穫準備」～

### 【秋まき小麦】

#### 1 ほ場準備

##### (1) 土壌簡易診断の実施

小麦類の適正 pHは5.8～6.0です。生育不良の要因の中には、低い場合のみでなく、高すぎる場合も見られます。pHを確認しながら、計画的な石灰質資材施用に努めましょう。

##### (2) 土壌物理性の改善

額縁明きよの設置や、心土破碎による耕盤層破碎で、排水良好なほ場づくりに努めましょう。土壌の排水性が低下すると「縞萎縮病」「眼紋病」「立枯病」などの病害の発生を助長したり、根張りが不良となることから、は種前に十分な排水対策を行ってください。

(3) 「野良生えの麦」の出芽が不十分な場合は、プラウによる反転耕起（耕起深30cm以上）による対策を講じましょう。

#### 2 は種時期

適期には種することが安定生産の鍵になります。

表1 「きたほなみ」の地帯別は種適期

アメダスポイント	区分	越冬前積算平均気温	は種適期
羽 幌	沿岸部	640～520℃	9/17～24
	内陸部	740～620℃	9/11～18
初山別	沿岸部	640～520℃	9/15～22
	内陸部	740～620℃	9/9～16
遠 別	沿岸部	640～520℃	9/14～21
	内陸部	740～620℃	9/8～15

表2 「ゆめちから」の地帯別は種晩限

アメダスポイント	区分	越冬前積算平均気温	は種晩限
羽 幌	沿岸部	590℃以上	～9/20
	内陸部	690℃以上	～9/14
初山別	沿岸部	590℃以上	～9/18
	内陸部	690℃以上	～9/12
遠 別	沿岸部	590℃以上	～9/17
	内陸部	690℃以上	～9/11

※表1、2の越冬前積算平均気温は、11/10より遡り計算。10カ年平均。

※内陸部のは種適期、は種晩限については沿海部(アメダスポイント)+100℃で設定

### 3 は種粒数(は種量)

は種量は、は種粒数と千粒重、発芽率から計算します。は種時期に合わせては種量を的確に設定し、特には種作業が早まる場合には必ずは種量を減じましょう。

表3 適期は種量(例)

品 種 名	適期は種粒数	は種量
きたほなみ	140粒/m <sup>2</sup>	6 kg/10a
ゆめちから	200粒/m <sup>2</sup>	9 kg/10a

※購入種子の千粒重を確認し、は種量を決定して下さい。

表3は「きたほなみ」：千粒重38g、発芽率90%で計算

「ゆめちから」は種量：千粒重40g、発芽率90%で計算

### 4 は種深度

- (1) は種時の作業速度が速すぎる事例が見られます。適正は種深度2～3 cm程度を確保するためにも、適正速度(6 km/hr程度)とし、は種精度の向上に努めましょう。は種深度を確認しながら作業を進めてください。
- (2) 土壌が過湿状態の場合、出芽率低下や生育不良の原因となります。
- (3) フカフカ整地(足で踏んで沈む状態)の場合には、は種深度を安定させるために鎮圧を行います。



写真 は種深度は必ず確認

### 5 基肥施肥

- (1) 基肥窒素量は4 kg/10aです。
- (2) リン酸・加里は全量基肥施用が基本です。土壌診断に基づき施肥量の増減を行い、ほ場に適した肥料銘柄を選択しましょう。

表4 道北における基肥施肥量(kg/10a、北海道施肥ガイド2020)

土壌型	窒素	リン酸	加里	苦土
低地土	4	12	9	3
台地土	4	14	9	4
泥炭土	4	14	10	4

### 6 除草剤散布

イネ科雑草対策には、は種後の土壌処理が効果的です。農作物病害虫防除および除草剤使用ガイドを参照し秋処理を必ず行いましょう。農薬使用時には必ずラベルで登録内容を確認しましょう。

#### 【豆類】

#### 1 収穫準備

- (1) 雑草や青立ち株は汚粒の原因となります。収穫前に抜き取りを徹底しましょう。
- (2) 小麦、そばや水稻収穫後のコンバインは、内部の清掃をしっかりと行いましょう。

安全を確認しながら農作業を行いましょう！

